

ゴリラとサルの社会

今回は薬とは関係のないお話になります。

1) ゴリラの社会とサルの社会

先日、たまたまテレビのチャンネルを切り替えた時にNHKのEテレだったと思うのですがゴリラとサルの社会生活の違いを解説している学者がいました。最後の方だったので全体の流れは分からないのですが、両者の違いを下記のように区別していました。

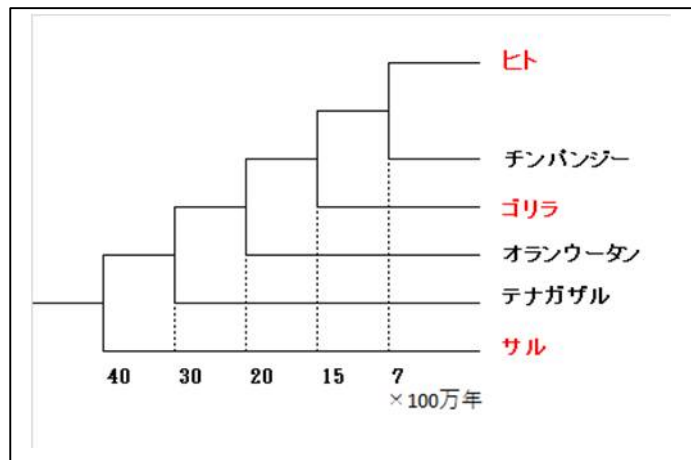
ゴリラの社会 : リーダーがいる → 民主主義的な社会生活が成り立っている。

サルの社会 : ボスがいる → 先制主義的な社会生活が成り立っている。

どうやらサルの社会では権力闘争によってボスザルが決まり、ゴリラの社会では人望(ゴリ望?)によってリーダーが決まっていけるらしいのです。番組の一部しか見ていなかったので詳細が不明でしたが、その学者は「**彼らは無用な争いをしない。しかし我々人間は争いごとが絶えない。人間もゴリラやサルに見習うべき点があるのではないか**」と視聴者に訴えていたようでした。

2) 霊長類の進化の系統樹

我々人間(ヒト)とゴリラとサルの進化の過程はどのようなもののでしょうか? 右図は札幌市円山動物園の資料を改変したものになります。恐竜が絶滅したのは6500万年前とされていますが、その2500万年後の今から約4000万年前にサルの祖先がヒトやゴリラの祖先と進化の過程で分かれたことが示されています。ヒトの祖先とゴリラは約1500万年前に分かれ、ヒトとチンパンジーは約700万年前に分かれたとされています。



1) 項の記載が概ね正しければヒトはサルのもつ先制主義的な生活とは4000万年前にほぼ決別し、ゴリラのもつ民主主義的な生活を1500万年前に受け継ぎながら進化してきたと思われます。しかし本ニュース447号でも触れましたが、現在世界では民主主義国家が44.3%、専制主義国家が55.7%と半数以上が先制主義国家となっています。ヒトがゴリラよりさらに進化しているのであれば大半が民主主義国家であっても良いはずですが、実際にはそうなってはいません。これはサルと分化する以前から持っていた先制主義的な性質が、ずっとヒトの系列になっても潜在化して存在し進化の過程でむしろ顕在化してきたと考えるべきなのではないでしょうか?

ヒトとゴリラの間に位置するチンパンジーの社会生活が民主主義的な生活なのか先制主義的な生活なのか私には分かりませんが、もし先制主義的な生活頻度がゴリラとヒトの間に位置するならばヒトは主義的にはサルへと先祖帰りしながら進化していることとなります。この二つの主義が混在することでヒトの間では争いごとが宿命的(遺伝子的)に絶えないと言えるのかもしれませんが、ゴリラやサルよりも優れているはずのヒトの能力でなんとか争いごとを終息させて欲しいものです。(終わり)